

市役所新庁舎建設特別委員会 行政視察 報告書

阿部 功祐

・平成 30 年 10 月 22 日月曜日から 23 日火曜日

10 月 22 日

＊群馬県富岡市

・平成 30 年 3 月 24 日落成式。

・市民と共に進化する安心安全な 100 年庁舎を基本理念に掲げ、4 つに基本方針を基に整備した。

→①みんなが集う街づくりのシンボルとなる庁舎 ②人にやさしい誰もが居心地の良い庁舎 ③防災・災害対策の拠点となる安心安全な庁舎 ④社会の変化発展に柔軟に対応できる経済的で長寿命な庁舎

・落成までの経緯は、平成 24 年 7 月～10 月に新庁舎建設設計業者選定・公募型プロポーザルの実施。全国公募で公開ヒアリングなどを実施して、公募 50 者の中から株式会社隈研吾建築都市設計事務所と契約。平成 26 年 3 月に新庁舎建設基本設計完成、4 棟方式の設計の採用。同 5 月新庁舎建設基本設計の見直し開始。市民などから 3 回の意見聴取を行った。その中で、市民サービス向上の実現、維持管理費の抑制に関する課題や意見を多く聞くことが出来、職員からも同様な意見があった。平成 27 年 3 月、新庁舎建設基本設計の見直し終了。4 つの建物を行政棟と議会棟の 2 棟にするなど、市民の利便性向上と維持管理の低減を図る見直しを行った。

同 12 月入札の実施。平成 28 年 1 月 27 日起工式。

・庇とルーバーの効果による、熱負荷を大幅に削減。ルーバー38%の熱負荷削減。庇による 25%の日射遮蔽。ルーバーの材は富丘産材 5 種類。防腐処理済。

・太陽光パネルの設置は 30kw。

・養蚕農家で採用されていた越屋根と吹き抜けで高低差を利用した自然換気の採用。

・雨水貯留槽があり、220 トンの容量を持ち、各界のトイレ洗浄水として利用。

・制震ダンパーの採用、1 階 2 階それぞれ 3 か所設置。非常用発電機設備（200 KVA）、受水槽（25t）、により、1,000 人を 3 日間収容できる。

・世界文化遺産登録時、新庁舎建設について、世界遺産委員会と協議、確認は特になかった。

・事業手法（PFI 方式等）の議論はほとんどなかった。

・建築の制約内容は景観条例での高さ規制 14m 以内。

・災害対策本部的なものは、2 階の町議室が災害拠点機能として、照明、コンセントなどの設備がある。

所感

設計が有名な設計者ということもあり、デザイン性が重視されており、供用開始後の変更等が難しいことが課題。例として、サイン、看板がわかりづらい、見えづらいと意見があり、市民の方が多く来朝する 1 階のサインの変更を検討中とのこと。また、ガラス面が多い庁舎であったが、ぶつかる職員、市民が多いとのことだが、そのガラス面への警告などの表示など対応策も検討など多く、市民目線、職員目線での検討が重要であり、デザイン性よりもその点の重要性が印象的であった。

議場もガラス張りであったが、ほとんどカーテンが降ろされたままであるとのことであった。

10月23日

＊町田市役所

・1970年に建設された旧本庁舎は、耐震性能不足による地震への不安、防災・災害復興拠点としての機能不足、狭隘、情報技術対応の限界、駐車場不足など様々な問題があった。

・新庁舎建設の経緯

1996年に旧庁舎耐震診断の結果、地震に対する危険性が指摘される（基準値0.6を下回る結果）

1999年18,000㎡の土地を約48億円で購入。2000年議会に庁舎等に関する特別委員会設置。2002年旧庁舎の耐震補強工事を最低限の補強で実施。2003年庁舎問題に関する市民アンケートの実施（5,000人対象で80数%改修）。2004年新庁舎建設基本構想を策定。2006年設計者が槇文彦氏に決定。2007年市民参加による「新庁舎建設基本設計市民ワークショップ」を全6回開催。その後、新庁舎建設基本設計が完成。2009年新庁舎建設実施設計が完成。その後、建設工事の施工業者が鹿島建設に決定（方式は、町田型総合評価方式で市民貢献度など7分類66項目、30億円は地元業者）。2012年3月新庁舎が竣工。

・工事中は市民向けとしてライブ中継を行った。

・新庁舎への引っ越しは大変。土曜日、日曜日を利用し約2か月かかった。

・デザイン性に加えて、環境、省エネ、導線を重視した。

・基本設計に第三者の目で見てもらい、品質第3者評価、コントラクション・マネージメントにより約17億円削減できた。委託料は1億円。

・屋上には、ヘリポートではなくホバリングスペースが設置されている。

・駐車場は立体型で、民間委託（委託先はタイムズ）

・住民票や国民健康保険手続きなど、市民利用の多い窓口は1、2階にまとめて配置し、コンシェルジュの配置も行っている。

・1階ロビーは休日にイベント等の開催も行っている。

・耐震性能は、通常の建物の1.5倍の強度にして、震度7程度の大地震でも、防災・災害拠点としての利用ができる。免振装置は無いが、サーバー室の床は免震となっている。

・環境負荷低減設備は、太陽光発電、雨水の再利用、照明制御システム、屋上緑化、ビルエネルギー管理システムの採用。また、吹き抜けの有効活用もされていて、ルーバーによる日照調整、アトリウムによる温熱環境負荷軽減など環境負荷の低い熱源の導入。吹き抜け（アトリウム）1階には植樹もされている。

・議場は低層階の3階に配置。親子傍聴席の設置。電子投票システム採用。

所感

庁舎らしい、使いやすい庁舎だと感じた。気候は松本市とは違うが、自然エネルギーの活用、環境負荷の低い熱源の導入、雨水利用、吹き抜け（アトリウム）など参考になった。コントラクション・マネージメントの採用により基本設計の事業費の削減ができたとのことで、この点も大変参考になった。屋上緑化は、花壇と畑が設置されていたが、土の吹きおろし等が外階段やガラス等への影響が気になった。ヘリポートはコストが高いため、ホバリングスペースの設置ということであったがこの点は、今後の検討、研究するところであると感じた。

今回の視察で、町田市の庁舎は大変関心を持った。

＊茅ヶ崎市役所

・旧本庁舎は昭和 49 年竣工。平成 21 年に耐震診断実施して、その結果、地震の振動、衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が極めて高いとの結果。来庁者が多い 1 階、2 階の事務室を分庁舎と仮設庁舎に移転。また、建物にかかる荷重低減のため、ホストコンピューターや大型印刷機を分庁舎へ移設。それ以外の残された本庁舎 3 回以上の安全性の確保が課題となった。

・平成 22 年 8 月、本庁舎再整備基本方針の策定。内容は、14,000 m²から 16,000 m²規模で早急な建て替え、総事業費は約 62 億円から 72 億円。など。その後、基本計画、基本設計の実施を行い、平成 25 年から新庁舎建設工事を行い、平成 28 年 2 月竣工。

・エコ庁舎の実現として、自然エネルギーの有効活用や省エネルギーの採用。井戸水を熱エネルギーとして利用。吹き抜け空間（エコボイド）は各階中央への自然光の導入と自然換気（ドラフト効果）を促し、建物全体の省エネ化に効果を発揮している。

・市民交流や活動スペースとして利用できる、市民ふれあいプラザの設置。休日も開放。

・来庁者の利用する共用ゾーンと、執務ゾーンはカウンターにより明確に区分され、相談や打ち合わせは共用ゾーンから出入りする相談室や会議室を利用することで、個人情報保護や情報管理の徹底がされている。庁内の各課に対応したセキュリティーレベルの設定、IC カードによる管理、執務室との間にセキュリティー区画を設けて、休日開放もできるシステムとなっている。

・ヘリポートは費用の面から採用せず、ホバリングスペースを屋上に設置。

・免震装置はゴム支承とオイルダンパー、免震側溝。

・議会施設

可動式の演壇の設置。上下可動式のスクリーンの設置。傍聴席後方に個室の特別傍聴室を設けて、子ども連れでも気兼ねなく本会議の傍聴が可能。本会議場の議員用の机には賛成反対用の投票ボタンの設置。

所感

各課の表示は、カウンター上部や柱に字が大きくわかりやすい標示となっていた。町田市と同様に、経費の問題からホバリングスペースの設置となっていた点は事かも参考となった。井戸水を空調の熱源として採用するなどエコ庁舎の点が印象深く感じた。